

アートマネジメントアカデミー 2023 実践プログラム

未来とつなぐ

国際芸術祭「あいち2025」の招待状を書こう

活動記録



目次

P.02 はじめに

P.03 企画概要

P.04 会場詳細

P.05 当日の様子

P.12 作品について

P.13 同梱物

P.14 広報制作物

P.17 広報活動

P.18 実施結果

P.21 アートマネジメントアカデミー 2023 実践プログラムを終えて



はじめに

本ワークショップは、「アートマネジメントアカデミー 2023」で学んだことの実践として、受講生のうちの有志メンバーが企画しました。学んだことやメンバーそれぞれの専門分野を活かしながら、2ヶ月かけて準備を進めました。

アートマネジメントアカデミーとは、アートラボあいちにて開催されている人材育成プログラムです。2023年度は、アートマネージャーの野田智子氏がプログラムディレクターを務めました。受講生は、ゲストによるレクチャーや、ディスカッションを重ね、芸術祭やアートプロジェクトの事例を中心に、アートと社会のつながりについて学びました。

ワークショップでは、1年半後の未来へ手紙を届けるプログラムを行いました。手紙は、国際芸術祭「あいち 2025」の開催直前に、招待状としてワークショップ参加者の元に届けられます。参加者が、1年半後に改めて何かを感じたり考えたりすることで、初めてこのワークショップが完結します。参加者には、届いた手紙を読んだときに湧き上がる気持ちを大切にしていきたいです。また、手紙を読んだ後、国際芸術祭「あいち 2025」を訪れ、作品を通して色々な気持ちを感じ、アートとは何か、アートは私たちや社会に何をもたらすのか、などを考えるきっかけになることを願っています。

目的

国際芸術祭「あいち 2025」が約 1 年半後に開催されます。イベントを通して、まずは芸術祭の存在を認知してもらい、アートが身近にあることを伝えるきっかけとしたいと考え、参加者の「あいち 2025」に対する興味関心と主体的な参加を促すことを目的としました。

内容

児童を主な対象として、2025 年の自分宛に「あいち 2025」の招待状を書いてもらい、タイムカプセル郵便※1 を利用し、芸術祭開催時期に参加者の元へ届けます。招待状は、2025 年 9 月 12 日（金）に届く予定です。

招待状には、「あいち 2025」についての記載があり、参加者がメッセージや絵を自由に書くことができます。発送時には、企画者からのメッセージと「あいち 2025」のチラシを同封します。

実施会場は、愛知県児童総合センターに協力いただき、1 階にある [あそびのスタジオ 2] の一部をお借りしました。また、国際芸術祭「あいち 2022」で展示されたりタ・ポンセ・デ・レオンの《人生よ、ここに来たれ》も特別に展示しました。

※1 タイムカプセル郵便 | 数年後の自分・大切な人に手紙を書いて、未来の指定する日・場所に届くよう、手紙を管理・差し出すサービス。

実施日時：2024 年 3 月 16 日（土）10：00～11：30、12：30～16：00

場所：愛知県児童総合センターあそびのスタジオ 2

対象：子どもと大人

参加定員：上限 70 組

参加方法：当日随時参加受付

参加者の動き：

受付 | プログラムについての説明を受ける

招待状を選ぶ（罫線あり / なし）

封筒をもらう

活動 | スタッフと一緒に、作業テーブルに移動

テーブルにある画材から好きなものを選び自由に記入

画材はサインペン、ダーマトグラフ、クーピーなど

会場内に展示してある作品の鑑賞も自由に実施



愛知県児童総合センター外観

開館時間
午前9時から午後5時
休館日
毎週火曜日(火曜日が休日の場合は次の平日)
および年末年始(12/29~1/1)

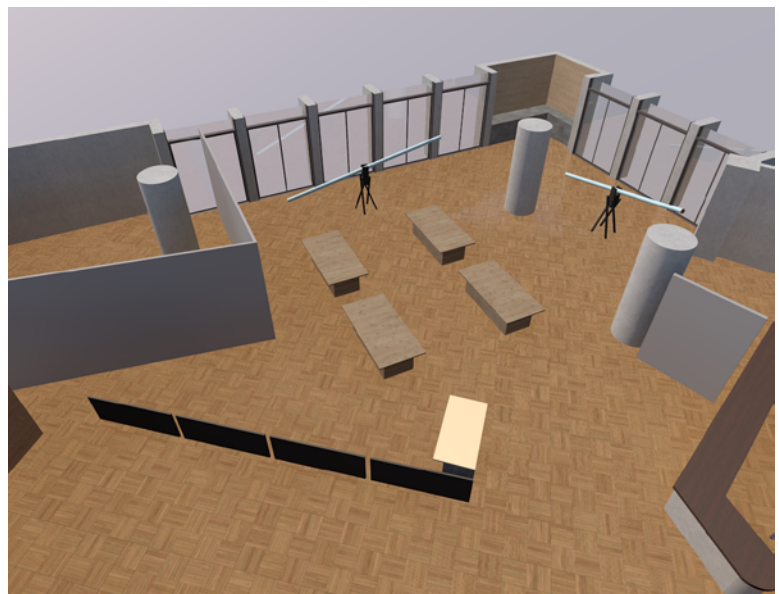
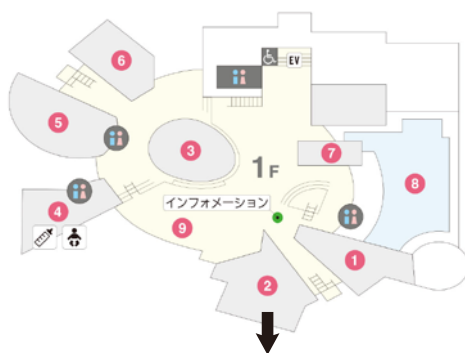
入場料
中学生以下無料、その他300円
回数券(11枚綴り)3,000円
団体入場料(有料者20名以上)240円

〒480-1342
愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1
愛・地球博記念公園内
TEL:0561-63-1110

愛知県児童総合センターは、子どもたちを日常の縛りから開放し、五感を駆使して身体感覚を確かに感じることで遊べる遊び、身のまわりのものや出来事に新鮮な気づきを提供し、自分自身と他者の存在と関係を実感する創造的で交流性の高い遊びを提供します。そして、そのために実験的な遊具や遊びのソフトを開発し、その成果を広く社会に発信します。

子育ての知恵の世代間継承が少なくなり、子育て世代の大人たちもまた孤立し、支援を必要としています。愛知県児童総合センターは、大人たちが子育ての喜びを実感できるような遊びを提供すると共に、必要な調査を行い、資料を収集し、若い世代の親たちを支える手立てを考え、関係各機関と連携して子育ての支援にもさまざまな提案と実践をしていきます。

引用 | 愛知県児童総合センター Web サイト



当日の会場レイアウトスケッチ _ 制作 | 上原渉

当日の様子



会場 | あそびのスタジオ 2



受付



招待状



絵描き道具













参加者へインタビュー _ インタビュアー | 東美沙季

作品について

愛知県児童総合センターの協力のもと、国際芸術祭「あいち 2022」で展示されたリタ・ポンセ・デ・レオンの作品《人生よ、ここに来たれ》を特別展示しました。

リタ・ポンセ・デ・レオン / Rita Ponce de León

《人生よ、ここに来たれ》



5種類の新作を意欲的に制作したリタ・ポンセ・デ・レオンの最初の作品は、アフリカが起源とされ、チリやペルーなど中南米で雨乞いの儀式に用いられるレインスティックと呼ばれる擬音楽器を基にした《人生よ、ここに来たれ》。三名の協力者の人生の節目を単語だけで綴った、いわば「他者の人生を聴く」インタラクティブな音響作品です。オアハカの職人による手漉きの紙にしたためられた、詩人のヤスキ・メルチーによる詩の作品《雨の声》も併せて展示されています。次の交差点のような空間には、楽器のマリンバに似た《魂は夢を見ている》が設置されました。メルチーと日本の詩人である新納新之助の二人が選定した言葉が音板に刻まれています。観客がそれらを自由に入れ替えることで、詩と音楽が共鳴する場が創出されました。そして最後の空間には、ポンセ・デ・レオンによるドローイング 10点と、彼女の友人たちの手による即興的なドローイング・パフォーマンスを収録した短い映像作品が並びました。

これらの作品を結ぶのは、ポンセ・デ・レオンの友人であり共同制作者でもあるメルチーが彼女に投げかけた「生きがいのある人生とは？」という問い。それは、メキシコ、ペルー、そして世界中で、健やかに生きることが困難な現代社会を反映しているでしょう。この問いへの解を模索する過程が STILL ALIVE への応答になると確信したポンセ・デ・レオンは、様々な個性や違いを包摂した生の多様性と豊かさを、身体性を伴う作品の体験を通して多くの人々と共有しようと試みています。以前、日本に滞在した際、日本の前衛舞踊である暗黒舞踏を学んだことも、彼女の詩的で経験的な思考に影響を与えています。

引用 | 国際芸術祭「あいち 2022」Web サイト

同封物

本ワークショップは、アートへの興味関心を促す機会や国際芸術祭「あいち」の存在を知ってもら
うきっかけを作りたいと考え、企画に至りました。以下のメッセージが手紙に同封されます。

このメッセージは、ワークショップに参加したことが、アートに関心を持つきっかけ、芸術祭を訪
れるきっかけとなることを願い、メンバーが作成しました。

ご参加いただいたあなたへ

みなさん、こんにちは。

アートラボあいちのアートマネジメントアカデミー 2023 実践プログラムメンバー一同です。

みなさんには自由に手紙を書いてもらいました。

改めて自分が書いた手紙を読んでみてどうですか。

アートとは一体何なのでしょう。

絵画や彫刻、自由や想像…いろいろな考えがありますね。

現代では、作品を制作する過程をアートと考えることもあります。

ちなみにアートの語源の1つに「人間が生きていくための技術」があります。

そう考えると、みなさんに取り組んでもらったことも1つのアートだったと言えるのかもしれ
ません。

もうすぐ、国際芸術祭「あいち 2025」が開催されます。

ここでは、まさにそうした現代アートを体験できます。

アートの新たな考えを見つけに行きましょう！

さんかしてくれたあなたへ

むかしのじぶんからのしょうたいじょうをよんでみてどうでしたか？

よんでいろいろなきもちがわきおこったでしょうか？

いろいろなきもちにつれていってくれるのがアートなのかも？

そんなアートにであえるばしょ、「こくさいげいじゅつさいあいち 2025」がかいさいされます。

おきにいりを見つけにいこう！

作成者 | 岩崎はづき、水野優菜

広報制作物

●メインビジュアル / 広報用デザイン

サイズ：可変（主に SNS で展開）

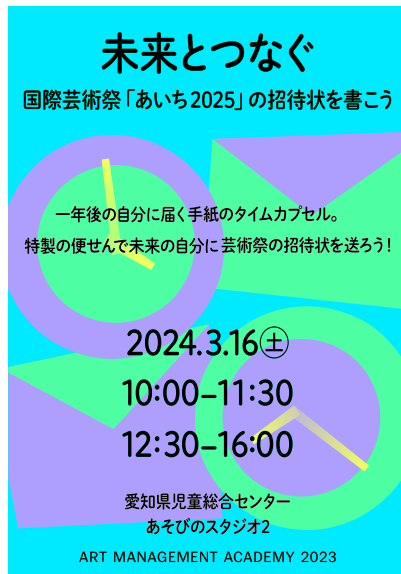
デザイン | 有佐祐樹



●立て看板

サイズ：A3

制作 | 小堀多真恵

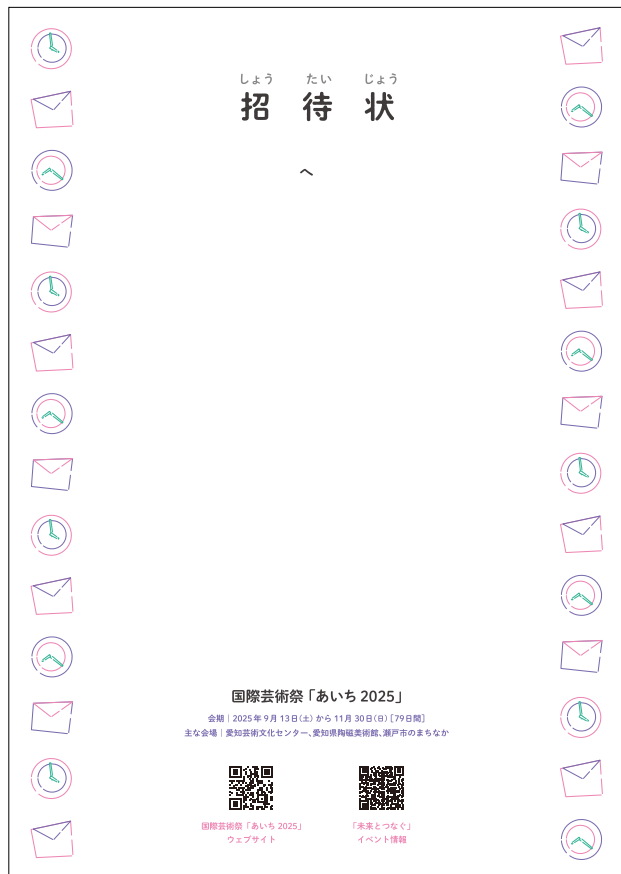


当日の使用法

●招待状

サイズ：A4

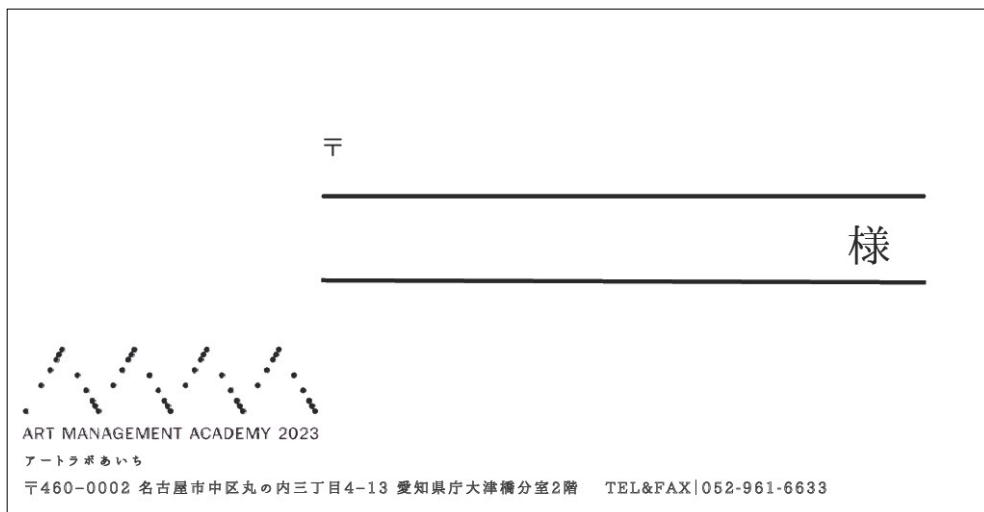
デザイン | 有佐祐樹



●封筒

サイズ：長形3号

デザイン | 都澤和奏



広報活動

アートラボあいち Web



アートラボあいち X



国際芸術祭あいち Instagram



愛知県児童総合センター Web



愛知県児童総合センター Instagram



実施結果

参加者数 72名（大人：41名 子ども：31名）

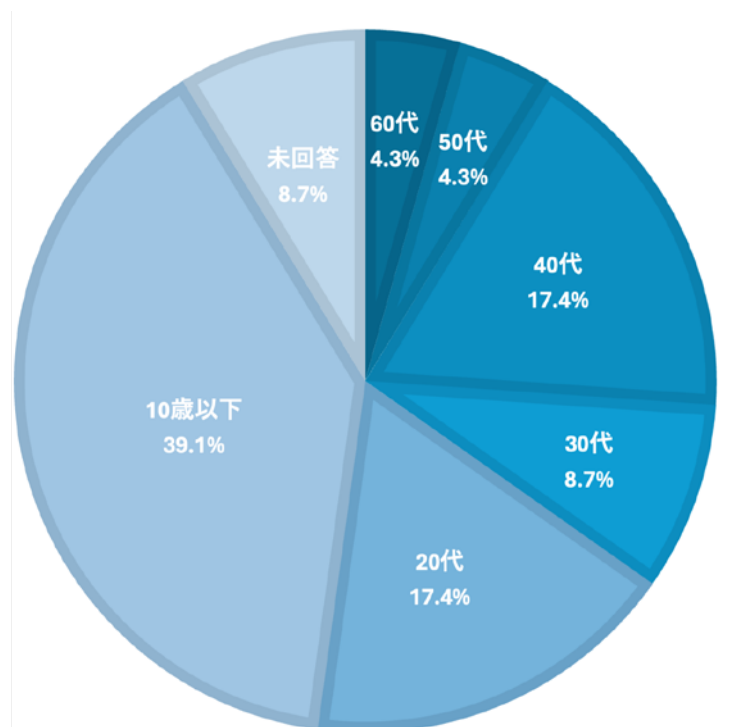
招待状の数 38通

当日会場では、参加者に向けてインタビューを行いました。ほとんどの方が、「楽しかった」と言ってくれました。その理由としては、最近手紙を書く機会があまりない、単純に自由に絵を描くのが楽しい、といったことが挙げられます。絵や文章のどちらか片方に限定しなかったことにより、子どもに向けたイベントではありましたが、大人の方にも楽しんでいただけたことがとてもよかったと感じました。

また、今回のイベントでリタ・ポンセ・デ・レオンの《人生よ、ここに来たれ》を展示いただけたことも非常に効果的でした。まだ言葉が発せない小さな子どもでも、作品を触って笑顔になるような場面がたくさんありました。このような場所で、国際芸術祭あいちの企画をすることは、アートの興味関心を促すことができ、より身近に感じることができるとは思いました。

参加者インタビュー

回答者：11組（計23人）



年代	人数	割合
60代	1人	4.3%
50代	1人	4.3%
40代	4人	17.4%
30代	2人	8.7%
20代	4人	17.4%
10歳以下	9人	39.1%
未回答	2人	8.7%

Q. 何でこのプログラムを知りましたか？

- ・朝の説明で聞き参加。(20代)
- ・インスタグラムを見て知った。(20代)
- ・来館して初めて知りました。(40代)
- ・インスタでこの施設が紹介されていて興味があり参加しました。(20代)
- ・お姉さん(回っていたスタッフ)に声をかけていただいて。(30代)
- ・家族が運営としてこのプログラムに参加していたので参加しました。(40代)
- ・家族が参加していたので来ました。(50代)
- ・会場に来てイベントを知った。(2歳児・5歳児の母親)
- ・放送で、一年後の手紙だよって言ってたから来た。(40代)

Q. あいちトリエンナーレ/国際芸術祭「あいち」に行ったことがありますか？

- ・芸術祭に行ったことがあります。すごく昔、伏見の地下鉄のところでやっていたと思います。もう何年前だろう？すごく前からやっているイメージがあります。(60代)
- ・覚えていない。(20代)
- ・前回の国際芸術祭「あいち2022」を見に行った。(20代)
- ・2016以降からあいちの芸術祭に行っています。(20代)
- ・芸術祭を見に行ったことはない。(40代)
- ・芸術祭には行ったことないです。(20代)
- ・芸術祭には結構前に行ったかな。ちょいちょい行っていると思います。(30代)
- ・行ったことあると思います。愛知県のダンスとか、美術館で。まあそれも家族が踊っていたから行きました。地元のトリエンナーレは、妻が参加していたので、そういうのもあって、参加したのかもしれないですね。(40代)
- ・豊橋の水上ビルにトリエンナーレが来たことがあるんですよ。住んでいるのが豊橋市なので、その時からボランティアスタッフさんの方達と交流があって。水上ビルでアートイベントのseboneというのがあって、そのスタッフとしても参加している関係でアートに触れる機会が多いですね。(50代)
- ・芸術祭を見にいったことはない。(2歳児・5歳児の母親)

Q. 国際芸術祭「あいち2025」に興味がありましたか？

- ・来年、「あいち2025」に行こうと思いました。(60代)
- ・自分で書いているので、一年後に自分からお誘いが来るっていうのは、行こうかなという気にはなりません。(20代)
- ・来なかったら知らなかったなので、今回参加して行きたくなりました。(40代)
- ・来年行きたくなりました。来年あるということを知らなかったなので、これをきっかけに行きたいなと思いました。(30代)
- ・来年芸術祭に行きたいと思いました！自分は全然こういうの興味がないんですけど、家族がこういうの好きで、それに付き添ってというような感じで、今までは過ごしていました。やっぱり自分に手紙を書くっていうのは良いですね。約束した感じなので、約束はやっぱり守りたいなっていう感じがします。自分に手紙が届いたら行くだらうなと思いました。(40代)

- ・行ってみたいと思ったよね。知ってた？芸術祭があるって。知らなかったよね。(7歳児、40代)
- ・園からもらうパンフレットとかが魅力的だったら行きたいなと思います。(2歳児・5歳児の母親)
- ・来年芸術祭に行くかどうか、まだ分からないです。(20代)

Q. ものづくりをされることは好きですか？

- ・好きですけど、下手です。元々絵がすごく下手なのと、あまり美術とか図画工作のセンスが皆無なので、自分の頭のを具体的なものとして出すということが著しくダメですね。(20代)
- ・子どもの頃ってみんな好きじゃないですか。絵を描くと親も褒めてくれるし、先生も褒めてくれるけど、段々うまい人と下手な人に分かれていって、自分はそんなにうまくないなと気づく時が来ると思うんですけど、うまくない派だったので、あんまりこういうのやって来ませんでした。作品とか、こう実際に書いてみると楽しいですね。(40代)

Q. 作品を触ってみてどうでしたか？

- ・書いてあることがリアルだと思います。作品に書いてある文字を見る前に、ただ音を聞いて想像したものと、文字を見てから想像した風景だと、また違うものがあると思うので面白いなと思いました。(20代)
- ・作品の材質が木であることや、動かすと川の音がしたり、そういう自然の風景が想像できました。作品に色々な言葉が書いてあるじゃないですか、それが、人間の社会の活動と自然とみたいなことを少し思い起こさせる気がしました。(20代)
- ・あの作品にも見覚えがあって、すごく懐かしいというか、また来年も必ず見たいなという気になりました。(50代)

Q. 今日このプログラムに参加してみてどうでしたか？

- ・なかなか取り組みが良いですね。この歳になると自分に向けて手紙を書くことがもうないので、すごく良いことだなと思いました。(60代)
- ・今の時代に手紙を書くことがちょっと非日常なので、トリエンナーレとかもうちょっと非日常的な感覚に入る所なのかなと思って、そういう共通点があって良いなと思いました。(20代)
- ・来年の自分に手紙を書くという行為は、特にLINEとかSNSが発達した今だと、フリックで入力するのは違いますね。実際に書き起こすというのは、普段よりも思慮深く考える必要があるので、いい取り組みだなと思いました。(20代)
- ・今回参加して、来年子どもが成長していることを考えました。(40代)
- ・子どもが喜んでいたのでよかったです。(20代)
- ・参加して面白かったです。(30代)
- ・子どもの時は、こういうの好きだったと思いますが、5歳とか6歳までですかね。好きだったはずなんですけど。絵が上手い人はいいですよ、そうでもない人は離れていっちゃうんですよ。今回、大人になってこうやってやってみると、初心に戻れていいなと思いました。(40代)
- ・今回の企画自体が面白いと思って、特に材料がいるわけではなく、アイデアだけで楽しめる。来年にもつながるだろうし、改めて自分に書くことは今までにないことだったので内容の企画が面白いなと思いました。(50代)
- ・一年後に届いたら楽しみです。子どもが喜んだらいいなという感じ。(2歳児・5歳児の母親)
- ・お絵描きしたのが楽しかった！(7歳児) 僕も！(4歳児)

アートマネジメントアカデミー 2023 実践プログラムを終えて

東美沙季 | 広報、アーカイブ担当

実践プログラムの当日、私は主に会場でインタビューを担当しました。何名かの大人の方にもものづくりは好きですか？と伺う中で、"好きだけど自分は下手です"、"子どもの頃は好きでした"といったような言葉が返ってきました。

下手だと思うのは、上手くないと評価されにくい日本の美術教育のせいではないかと、インタビュー中に疑問に思いました。しかし大人の参加者が、下手だと思う前の、好きな気持ちや楽しい感情をこのプログラムを体験して思い出し、楽しんでくれている様子が見られて、プログラムを開催できてよかったと思いました。一年後に招待状が届き、またその感情を思い出すことで興味をもち、芸術祭に訪れてもらえたら嬉しいです。

岩崎はづき | 予算管理担当

子どもを対象にしたイベントをやるのは初めてだったので、難しかったです。自分が普段研究していることと比べて、実際にやってみるとだいぶ細かい調整が多く、ワークショップ型のイベントの複雑さを知りました。近藤さんをはじめ様々な方々が適切なアドバイスをしてくださり、また実践編のメンバーたちがとても主体的に行動していたので、とても励みになり今後の刺激になりました。

機会があればまた反省を生かして新たなプロジェクトに取り組んでみたいです。

小堀多真恵 | 進行管理担当

今回の企画を遂行することの難しさを感じましたが、それ以上に楽しさややりがいを感じました。身近なようで複雑なアートに対して、参加者の関心を引き出し、どうしたらより良いプログラムにすることができるかを考えることで、アートマネジメントアカデミー 2023 で学んだ事がより鮮明になりました。

当日、愛知県児童センターのご協力のもと展示されたリタ・ボンセ・デ・レオンの《人生よ、ここに来れ》を鑑賞する親子の参加者の姿や、小さい手で作品を見て拍手をする子どもの姿を見て、アートのあり方について改めて考える機会となりました。普段、アートについて複雑な考えにとらわれがちな私にとって、作品を純粹に楽しむその姿や楽しみ方はとても輝いて見えました。この貴重な経験を通じて、日常的にアートに触れる機会が増えることで、アートがもたらす人との繋がりや新たな視点、刺激によって自己を広げられることを再確認しました。

今後はさらにアートに没頭するだけでなく、より積極的にさまざまな活動に参加していきたいと考えています。

上原渉 | 設営計画、物品管理担当

まず初めに、このイベントに携わってくださった全ての方々、とても貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございます。

アートマネジメントアカデミー 2023 から始まり、実践プログラムではかなり現場に近い経験をさせていただきました。自分自身、今回のアートマネジメントアカデミー 2023 ではアートとお金の関係について考えるきっかけになりました。アートとお金の問題は、遠いようでとても近く、解決しなければならない問題だと考えています。この問題をクリアにすることで、よりアートが身近になり、誰もが関わりやすいものになっていくと思います。これからのアートの発展と誰もがアートを楽しめる世界になることを心から願っています。

都澤和奏 | デザイン担当

アートマネジメントアカデミー 2023 ではたくさんの芸術を支える仕事をしている方のお話を聞くことが出来ました。お話を聞いた上で最後にメンバーのみなさんとイベントを企画するのはとても勉強になり、楽しかったです。企画の難しさも当日の達成感も感じる事が出来ました。また、実際に企画する側になってアートマネジメントという仕事が見えてきたように感じました。

この経験を糧にこれから将来のことを考えながら色々なことに挑戦していきたいと思います。

水野優菜 | 会場アポイント、アーカイブ担当

私は参加型アートに関心があり、本企画に参加しました。参加したことで、実践的な経験の大切さを改めて感じました。

これまで理論的な研究を行うにあたり、アートは人々や社会に何をもたらすのかを考えてきました。企画することを通して、それには明確な答えがあるものではなく、人それぞれに感じ方や得るものが違ったり、月日が経過して生まれるものがあったりすることを知りました。また、美術だけでなく、建築や文学を専門とするメンバーの考えに触れたことで、多角的な視点を持つきっかけとなりました。キュレーターとしては、レクチャーにもあった通り自分のやり方を構築していく必要があります。

そのため、今後もこうした実践的な経験を積んでいきたいです。

アートマネジメントアカデミー2023実践プログラム
『未来とつなぐ~国際芸術祭「あいち2025」の招待状を書こう~』

開催日時：2024年3月16日(土) / 10:00-11:30, 12:30-16:00

会場：愛知県児童総合センター あそびのスタジオ2

企画運営：東美沙季、岩崎はづき、上原渉、小堀多眞恵、都澤和奏、水野優菜

監修：野田智子、近藤令子

協力：愛知県児童総合センター

主催：国際芸術祭「あいち」組織委員会

「未来とつなぐ」記録集

編集：東美沙季、岩崎はづき、上原渉、小堀多眞恵、都澤和奏、水野優菜

デザイン：小堀多眞恵

記録写真：安藤桃花

発行：アートマネジメントアカデミー 2023 実践プログラム

